

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を反映しグループホームの理念「一人一人を大切にしながら多くの友人を持ち地域の中の一員としてその人らしく豊かな人生を送るようにする」をもとに管理者と職員が理念を共有し実践している。	法人理念「愛と共感」を基にその理念に向かってケアがしやすいようにと各々のユニットで独自の理念が職員の話し合いで作られた。申し送り時、スタッフ会議等で唱和している。理念にそぐわない言動の時は事情を聞き、入居者の立場に立って気持ちが汲めるように注意している。	現在、グループホームの理念は職員のみで共有・理解しているような感じを受ける。家族や来訪者などにも理念を明示し、理解していただき、ホームの協力者となっていただけるような働きかけを望みます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月近くの店に買い物に行き店内の人と会話したり、地域の運動会に参加、老健の夏祭りなど参加し合う事で相互の活動に興味を持って、日課の散歩など近隣の方々に声を掛けお互いに顔見知りになる様に機会を作っている。	散歩時に近所の方と挨拶を交わしたり、地区の運動会で入居者は見学、職員が競技に参加して地域の人々ともふれ合っている。地区の新年会にも管理者が親睦を兼ねて参加している。併設の老健主催の夏祭りに作品を出品し、老健の入居者や地域の人々とも交流している。法人内の保育園の運動会等にも継続的に招待されている。アコーディオン、踊り、腹話術等のボランティアの来訪も定期的にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回催し、地域の一員としてあり続けるために交流会、ボランティアなど積極的に受け入れ理解していただける場を持つように心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の方々の状況を説明しながら日々実践した行事、クラブ活動の成果を報告し、会議で頂いた意見は次回までに回答できる様、会議録を通し全職員に周知し向上に努めている。	2ヶ月に1度、家族、民生委員、区長、地域包括センター職員等の参加を得て開催されている。活動状況報告や1・2階の行事報告が行なわれたり、地域からの意見・要望を受けて地域との関わりやサービスの向上に繋げている。次の開催日は委員の都合を聞いた上で決まるので出席率は良い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の方々の状況に応じ連絡や市よりの相談などを協力関係を築くようにしている。	待機者について地域包括支援センターから情報を頂いたり、認定更新で情報を提供している。市から派遣される介護相談員が毎月来訪し、入居者の情報を記録し残している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議など意見を出し合いお互いに学習し勉強しながらケアに取り組んでいる。	ホーム横に川があるので契約や見学の時に状況を見て頂き、玄関の施錠をせざるを得ない場合があることを了承いただいている。研修会やスタッフ会議で知らず知らずに使う言葉による拘束についても意識するように話し合っている。帰宅願望の入居者には個別に気をまぎらすよう支援している。	

医療法人博人会桜グループホーム・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会、勉強会の実施しながら防止に努め、お互いのケアを見直している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを回覧し全職員への周知している。研修や市民後見人の研修を受け入れお互い話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接を含めご家族やご本人の希望や不安を聞き、十分説明の上同意書等の記入を頂き、入所後の生活が円滑に進む様努めている。解約に関しても段階的に話を進め情報提供など出来る限り行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一回のあんしん相談員やご家族の面会等にご本人の言葉などを聞き取り、入居者の状況把握に努め、日々業務を見直していただけるよう話し合いをしている。	家族の来訪は毎週の方、月1度の方と様々なので毎月請求書と一緒に入居者の状況報告や行事のお知らせなどを送るようにしている。年3回、入居者の様子を写真にして載せた「たより」を発行し家族に送っている。家族会が年1回昼食会を兼ねて開かれており、認知症についての理解を深めていただくと共に家族同士の交流の場となっている。同じ課題を持つ家族としてこの交流が喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的開催している運営推進会議にてご家族の希望や要望を聞き、その場で回答できる事は行ない、検討が必要な事は全職員で意見交換しケアに反映できる様努めている。面会等もご家族とコミュニケーションを取り意見を聞けるよう配慮している。	スタッフ会議が毎月1回ユニットごとに行われている。入居者を臨時職員に見てもらい全員参加で行われている。介護計画見直しのためのカンファレンス、モニタリングなど気軽に意見・要望を出し合っている。人事考課制度が導入されており、年2回、管理者と面談し、要望、提案、意見などを出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を取り組む段階で把握できている行事等に関して職員を多く配置し、通常勤務での対応が困難な場合、出退社時間を調節している。興味のある研修には積極的に参加できる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年ISO上の研修が定期的であり、また法人内外の研修にも希望者を出来るだけ参加できる様にスキルアップを目指している。研修報告を全職員に報告し業務に反映出来る様心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修、グループホーム連絡会に参加して情報を交換を行ったり意見を持ち帰り検討したりしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心のケアに重点を置き訴えなどを傾聴し負担を取り除くようにご本人の言葉聞き丁寧に質問に答え、また必要と思われる事はこちらから質問しグループホームをより理解して頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接から契約時まで希望、要望を聞き意見交換をし、グループホームの生活に慣れる様共に考え入所までに蜜に連絡を取り合う様心掛けている。事前の情報収集はケアマネージャーに行ないご本人の理解に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉用具購入などの対応している。業者の方に来て頂き相談しご本人納得の上購入している。他施設の紹介に関しても連絡先を伝える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの理念にうたわれている様にその人らしく豊かな人生を送れる様に自立支援しながら関係作りすすめている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会等なるべくご家族との触れ合う時間を持てる様支援し、お知らせなどで情報を伝える様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限はない為いつでも対応出来る様にしている。ご家族以外との外出の際は必ず了解を得る様にしている。	入居前の近所の方の来訪やデイケアに通う人と散歩途中で話したり、面会に出かけて行く。手紙を書きたい方への支援もしており、電話もかかってくる方のほうが多い。お盆、正月に外泊する入居者もいる。お墓参りはホームから家族にお願いし同伴していただくようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しい入居者を迎える場合既存の関係を壊さない様に配慮している。新しい入居者を受け入れみとめ合えるケアし、能力を発揮出来る様な支援し新たな人間関係を築ける様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された以降ご家族からの連絡はないが、必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接の際ご家族やご本人の今までの暮らしグループホームでの希望、意向の聴取しその人らしく豊かな人生を送る様に全職員検討している。	普段から入居者とのコミュニケーションを取ることに心がけている。ユニットごとほぼ半数の方は思いや意向を伝えることができる。大勢の前では難しいが個別に接すると言葉が出てくる入居者もあり、見逃さないように注意し、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人より、今までの生活歴を聴取しグループホームのケアに取り入れ、必要に応じて居宅のケアマネージャーに情報提供を願い出る事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活歴、希望など考慮しながら自立支援し、抱えている問題を早期に把握して様々な方向よりケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前の情報、ご家族以外なども、聴取を元にグループホームでの生活をしていく為の本人、家族関係者の話し合いをし意見や要望など全職員で話し合いご本人の介護計画を立てられる様努めている。	入居時に本人や家族が希望されることを聞き取りプランに組み込んでおり、計画作成担当者によって介護計画が立てられた後家族に説明し承諾を得ている。各ユニットのスタッフ会議でカンファレンスを行い、3ヶ月に1回見直しをしている。状態に変化があった時には随時見直しをかけ変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	グループホームでの生活の様子ご本人、ご家族の要望、医療、他入居者との関係などこれらを基にカンファレンスを行ない見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでの生活維持が困難になった場合併設の老人保健施設、デイケア、居宅支援事業所など紹介を必要に応じて行うように取り組んでいる。		

医療法人博人会桜グループホーム・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との防災訓練を行ない災害時に備え、ボランティアさんなど積極的に受け入れ外部との交流を行うよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の記録や介護士の情報により看護師が情報提供書等の作成をし主治医にも状況把握をして頂いている。	入居時に家族の要望によりホームの主治医へ変更している方が多い。一週間に1度往診があり、看護師資格を持つ職員が状態の悪い入居者を判断し診察を受けている。訪問調査時、丁度、家族と一緒に専門医へ行く入居者を職員が見送っていた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を	看護師を配置し医療面でのケアをし介護士にも伝え、介護士も日々情報を提供し状態の変化に対応し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関があります。情報提供書を作成し入退院時情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制加算により看取りの指針に沿って行う支援している。看護師、ご家族、管理者、介護士との話し合いをし、十分説明して方針を共有する事に努めている。	事業所としての重度化や終末期のあり方の指針があり同意書を家族から頂いている。医師、看護師の指示のもと併設の老健施設へ入所したり、医療機関へと移っていただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿って応急手当、救急車の要請をし、スタッフルームの目に付く所に置いて、常に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年何回も日中、夜間想定し災害時に備え日々訓練をし、避難訓練など地域の方も協力して頂いている。	併設する老健と一緒に年2回消防署、地域の方々の協力で昼夜想定避難訓練が行われている。入居者の各居室の表札にマグネットで氏名、歩行状態、家族の連絡先などを記すなどの工夫もされている。スプリンクラー、火災報知機等の設備も整っている。	2階ユニットでは非常階段を使用しての避難も考えられるので実際に夜間の避難を試みられることを望みたい。また、避難訓練は入居者全員参加を基本に実施していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法により記録物に関して使用目的を明言した同意書を頂いている。個々のケアに努めている。	入居者への呼びかけは苗字に「さん」づけで呼んでおり、敬意を持って接している。病院にかかる場合もあるので入居時個人情報同意書を頂き利用の範囲などを定めおり、職員も守秘義務や人権の尊重について十分理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい豊かな人生を送れるように入居者中心にケアし、レクリエーション、散歩など声掛けし参加出来る様努めている。参加されない場合も何か提供し声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の要望に沿うように努めているが全部受け入れる事は出来ない。買い物外出、クラブ活動など支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望によりご家族に連絡し訪問美容室を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一日一食食事作りをして頂いています。他二食は盛り付けをお手伝いして頂き、毎食片付けなど一緒に行っています。	居間の多目的に使われている机に花柄のテーブルクロスがかけられ食卓へと早代わりし、入居者により配膳がされていた。「わしはホテルの料理に関係していたがこの食事はうまいです」との一人の入居者の言葉の通り全員が完食し、食後も決まった当番が食器を洗ったり、片付けたりとかいがいしく働いていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士さんの基に食事が提供され、食事量、水分などチェックしたり把握しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをし誘導の必要な方、残渣確認の必要な方の支援をしています。夜は義歯入れにお預かりしています。		

医療法人博人会桜グループホーム・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人々の状況を把握しご家族の了解を得ながら、必要物品を使用して自立出来る様に支援している。WC誘導、声掛けなど行っている。	自立で布パンツの入居者が多い。排泄チェック表を基に声がけや介助をしている。夜間のみポータブル使用の方もいる。人前で失敗した場合には他の入居者に気づかれないように居室やトイレで対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を多くし、腹部マッサージ、運動など取り入れ予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や自立により見守りの方もおられ、約一日おきに入浴の支援しています。季節浴など楽しんでいます。	浴槽は風呂場の真ん中にあり3方向から支援できる。一人での入浴が多いが、気の合う入居者同士で入ることもある。基本的には週3回であるが毎日入浴している入居者もいる。季節の菖蒲湯、ゆず湯などもするが、入浴剤の使用も温泉のようだと喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで入眠される様、温度、湿度の調整明かりの調整、定期的に換気に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と共に目的、副作用のなど勉強しWチェック、トリプルチェックして確認し誤薬を予防しています。服薬変更の際はノート、入れ物に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存能力を生かしながら生活歴や力を考え興味を持てる家事支援、レクリエーションの提供、クラブ活動など支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課である散歩、買い物外出、外食、ドライブ、保育園の交流会、地域の運動会など支援している。	天気の良い日には自力の方、車椅子の方共に思い思いのペースで近くを散歩し近所の方と挨拶を交わしている。年間で外出行事を計画しており、ユニットごとに併設デイケアの車を利用し、花見、イチゴ狩り、菊花展等に出掛けている。100円ショップなどへ買い物に出かけることもある。	

医療法人博人会桜グループホーム・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族の了解が必要になっている。買い物外出では支払いの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、葉書(年賀状)、TELの希望など住所、番号の間違えがないか支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、キッチン、WCなど各々清掃し花を飾り季節感を感じて頂き、居心地良くすごせる様に工夫している。温度、湿度調整など配慮している。	居間は各居室の中央にあり、台所も並びにある。居間からは近くや遠くの住宅や取り入れの終わった田んぼ、収穫前の真っ赤なりんご園、横を走るしなの鉄道の電車や斜め上に新幹線などを見ることができ、周りの生活感が日々感じ取れる。入居者はユニットごと、思い思いにクラブ活動や作品作りを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにて円になりお互いにお話したりレクリエーション、体操されたり居場所の工夫している。各居室で好きな時間を過ごす事もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時今までの使い慣れた物など持ち込まれ環境作りをしています。(椅子、写真、本、人形など)	広々とした居室には洗面台と造りつけの鏡が設置されている。暖房はパネルヒーター使用となっている。テレビを置いたりハンガーにお好みの洋服を揃え、壁には塗り絵などの作品を飾り、自分のお気に入りの居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりそのひとらしく豊かな人生を送れるように自立支援し工夫しています。		